

# 横内 昭光 院内交番を立ち上げた、人情派のスーパー院内デカ

文 高橋 誠

Text by Mac Takahashi

学校法人慈恵大学広報推進室長  
医療・健康コミュニケーター

慈恵大学病院渉外室横内昭光名誉顧問（元警視庁捜査一課管理官）は、警察OBとして他大学病院に先駆け慈恵に招聘され、院内交番を立ち上げ、「医師の態度が悪い」「いつまで待たせるのか」「病院食に異物が混入している」などと過度に騒ぐ暴言や暴力対応のエキスパートと



全国の病院での年30回の講演「患者はなぜ怒る！クレーム・暴力の対応」は、<sup>暴行</sup>暴行の迫力で、誰も寝る者がいない。

婦関係がこじれた」「ストーカーで困っている」などプライベートの相談にも応じました。悩んで集中できない医療スタッフに診てもらいたくない、という患者志向の発想です。

新宿警察署刑事課長時代には、駅前広場でお年寄りを入質にとり、喉元に包丁を突きつけた犯人の一瞬の隙をつき、左足で正鵠を射るように凶器を蹴り飛ばした姿が、夕刻の帰宅時ラッシュの黒山の人だかりと共に、全国ネットでテレビ中継されました。

強くて温かい院内デカ、  
中小クリニックのサポートへ

なりました。國松長官狙撃事件など多くの特捜事件の指揮を執った41年の豊富な経験で培った対応術を活かし、医療界で第二の人生を歩んでいます。

平成16年の着任後、横内氏は、「患者さんを支える医療スタッフこそ支えが必要」と感じ、医師、看護師達からの「夫

誤って駅ホームに転落した日本人を救おうと飛び込んだ韓国の青年が、入ってきた電車にはねられ死亡した事故では、被害者の両親が再三来日しては「事故の検証」を懇願。同情した横内氏はJRと交渉し特例で未明に列車を走らせ事故当時を再現。やむを得ぬ愛息の死を両親は納得しました。

凶悪犯罪に立ち向かう揺るぎない強さと、被害者家族の心に寄り添う温かい人情が横内氏の真骨頂。患者側、病院側間わなないフェアな対応は内外の病院職員から信頼を獲得。発起人となった勉強会「病院内勤務する警察OBの会（HKO会）」で院内クレーム対応事例を共有、2000人超の全国組織に育てました。平成27年、慈恵での11年のミッションを卒業した院内デカ。今後はニーズが多い中小クリニックのサポートを計画。医療環境の安全・安心のために、毎年、趣味の登山で健脚を鍛えています。



## Profile

学校法人慈恵大学広報推進室長。医療・健康コミュニケーター。  
東京生まれ横浜育ち。慶応義塾大学経済学部卒。ミスノ広報宣伝部、リクルート宣伝企画部、米国SPBC社New Design Conceptor（LA在住12年）、仙生露Executive PR Adviser、富士1ばんゴルフ副支配人/経営企画室長/広報室長を経て、2004年より現職。日米複数企業における広報・マーケティング経験から、難解な医療・健康をわかりやすくメディア・社会に伝えるべく、病院広報担当者間の勉強会「病院広報研究会」を立ち上げ、医療・健康コミュニケーション活動を研究中。趣味はゴルフ（Hdcp9）、ワイン（日本ソムリエ協会ワインエキスパート#58）。